

御本尊御前立開眼法要 表白

謹み敬つて真言教主大日如来両部界会諸尊聖衆、殊に別ては本尊聖者、飯繩大権現、大小天狗、萬山諸神諸大眷屬、総じては盡空法界一切三宝の境界に白して言さく。

惟みるに當山は、高天連尾の地勢にして四方瀧水の轟然、靈氣と共に立ち満ち、紫雲溪谷に棚引く雲霧常に幽玄の香煙となり、自然莊嚴の梵行道場となる。

聖武帝の天平十六年、行基菩薩勅を奉じこの地を靈地とトして、一字を創建し業師如来を安置し給へり。その後、永和年間、宇治の郡醍醐山より俊源大徳来りて當山の興隆を祈り、百万遍の慈悲呪を誦じ、八千枚の苦練を焼いて飯繩大権現の神呪、オンキリカクソワカを賜う。爾来、鐘磬恒ねに響き、法燈今に連なる。夫れ飯繩大権現と者、本地法身毘盧遮那如来、地藏薩埵、大聖不動明王、三身一体の化身にして五相合体の姿を現す息災延命の御守護神なり。

十三の誓願を以て、眺望十三州を睥睨し七難即滅七福即生の利益を、六道の群類に及ぼす。應化自在の浄水を十方の有情に洒ぎ、国家安穩、萬民豊樂を得せしめ給う。慈悲第一にして正直正道の道を照らし、登拝の願主福徳利生授からぬ者なし。

然りと雖も、幾星霜時に櫛風に吹かれ、時に沐雨に遭う時節に修復営繕の修治を加へ、今日に至る。

本年、時あたかも中興開山六百四十年の勝縁に当たり、本尊御前立新造の願企つ。十方信徒浄財喜捨を惜しまず、當に今大本堂奉安となる。

願うところ、旧来利生倍増威光にあり。

乃ち本日吉辰を卜して、百味の飲食を供え、大般若転読特別開帳大護摩供を厳修し、恭しく御本尊開眼供養に擬す。仰ぎ願わくは飯繩大権現の御尊像内證の五眼を圓滿して、五智四身の妙相を具足し摂化衆生の勝益を施し給へ。

乃至法界 平等利益

平成二十七年五月二十一日

大本山高尾山薬王院第三十二世貫首 大僧正 隆玄 敬白

御挨拶

高尾山は天平十六年に行基菩薩が業師如来を奉安開山され、永和年間に俊源大徳により中興開山されたと伝えられております。京都醍醐山より入山された俊源大徳が、現在の御本尊・飯繩大権現様を高尾山上に奉安されて以来、多くの方々に永い間信仰されて参りました。本年は永和元年より数えて、六百四十年という節目の年に相當致します。

しかしながら、今日、大本堂に奉安されております御尊像は、造立されて以来、幾星霜の年月が流れ損傷著しく、故に、大本堂御前立御本尊造立を發願致しましたところ、十方有縁の御信徒の皆様方より多大なる御信助を賜り、着々とその大浄業を進め、此の度、脇侍の天狗像、小天狗像と共に、立派な御尊像完成奉安の運びと成りました。

新たな御尊像が、皆様方お一人お一人の御信仰の依所の一つであることを、また、御信徒各位が更に多くの御加護を得られますよう、山内一同心を合わせ勇猛精進を重ねて祈願致す次第であります。

茲に十方信徒の御協賛に対し衷心より厚く感謝申し上げます。御礼の御挨拶と致します。

平成二十七年五月吉日

大本山 高尾山薬王院

貫首 大山 隆玄

新造立 御前立御本尊 飯繩大権現像開眼大法要厳修

平成二十七年五月二十一日(木)



去る五月二十一日、高尾山薬王院大本堂内において、新造立御本尊御前立・飯繩大権現像の開眼法要、及び特別大護摩供が厳修されました。

高尾山上は、二十一日未明に激しい雷雨に見舞われましたが、夜が明けると一転して、瑞雲たなびく快晴の空が広がりました。

法要に先立ち、高尾山御詠歌講の皆様により御詠歌が奉唱され、その後、山伏の法螺の音を先導に職衆、大導師の大山御貫首が入堂されました。

大本堂内の新御前立の御宝前にて、開眼作法である「点睛の儀」が行われ、続いて、随喜の法類寺院、招待者が共に祈りを捧げる中、特別大護摩供が厳肅にかつ盛大に執り行われました。

これまで大本堂に奉安されておりました飯繩権現像は、今回の法要に先立ち、先月の四月二十一日に、御本社の飯繩権現堂に遷座されました。

今回新造立された御尊像を御信徒の皆様が今後百年、二百年、三百年と年月を重ねてお祈りを捧げられますよう、願う次第であります。